

■ おいたち

本市は、古代は大和から東国へ通ずる要路として、また伊勢国の国府や国分寺が置かれるなど、地方の政治、経済、文化の中心であった。

明治以降、廃藩置県を経て、神戸、白子は町制を施行し、昭和 12 年頃から軍施設が広範な地域に建設され、人口も著しく増加し、昭和 17 年鈴鹿郡の 5 か村、河芸郡の 9 か町村が合併し市が誕生した。このような発展形態の特異性から中心核がなく、市内主要地区である神戸は城下町として、白子は宿場町として、また牧田は戦後の軍用地跡を利用し誘致された工場群の中心として、それぞれ独自の機能と商圈を確保しつつ 3 地区が独立して発展してきた。

特に企業の進出については、第 2 次世界大戦後、繊維産業や化学産業等が急速に立地し、工業都市としての生産活動が始まった。その後も輸送機器関連を中心に数多くの企業が立地し、工業都市として飛躍的な発展をとげた。

人口についても活発な産業活動、都市化の伸展等により、約 20 万人を擁する都市へと成長し、農業、工業が調和した「緑の工都」として発展してきた。

令和 6 年 4 月には都市計画の基本方針である「鈴鹿市都市マスタープラン」を改定し、「鈴鹿市総合計画 2031」に定める将来都市像「ひとつつながり DX で未来を拓く # 最高に住みやすいまち鈴鹿」の実現を目指している。

■ 位置・地形

本市は、三重県の北中部に位置し、四日市市、亀山市、津市に接し、東は白砂青松が続く伊勢湾に臨み、西は美しい山容を誇る鈴鹿山脈を控え、四季折々の自然環境と温暖な気候に恵まれたまちである。

市の中央部には一級河川鈴鹿川が流れており、海拔 10m 程度の沖積層に緑豊かな伊勢平野が展開している。

また、鈴鹿川に沿って国道 1 号、JR 関西本線、南北に国道 23 号、伊勢鉄道、近鉄名古屋本線、西部を東名阪自動車道、第二名神自動車道、国道 306 号、市の中央部を近鉄鈴鹿線が通っており、交通の便にも恵まれている。

経済圏域としては、中部圏に属し、その中心名古屋市へ 50km、また、近畿圏の中心大阪市へも 100km の距離にあり深いつながりをもっている。